

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0174600312		
法人名	有限会社ハタ介護ステーション		
事業所名	グループホーム我が家		
所在地	〒080-0053 帯広市新町西6丁目5番5号 (電話) 0155-36-3604		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年2月22日	評価確定日	平成22年3月18日

【情報提供票より】 (平成21年 5月 23日)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 1月 23日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人 非常勤 0人 常勤換算 6人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷金	有( 円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1ヶ月当たり 35,000 円		

### (4) 利用者の概要 (10月24日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	1名	要介護2	1名
要介護3	2名	要介護4	5名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 85.1歳	最低 78歳	最高 97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	長屋内科胃腸科医院・フジ歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は帯広川が流れる通りに立地し、利用者は堤防を散歩コースの1つとなっている。職員は、申し送りの後必ず研修を兼ねたミーティングを行い、働きながらトレーニングしていくことを進めている。管理者は長く高齢者介護に携わっていた経験を活かして職員を育成をしている。職員の離職もなく職員間の意志疎通ができており、利用者とも馴染みの関係を築いている。また、利用者の重度化についての研修を行い対応をしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善事項については、管理者が同業者と交流を持ち情報交換を行っており、職員研修の中で報告し情報を共有している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で取り組み管理者が集計し話し合い、ケアの統一を図っている。業務の改善についても、日常的に話し合いを行い、よりよいケアを目指している。
重点項目③	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議では、事業所の取り組み状況、利用者の状態等を報告し、出席者からの意見や質問に答えたり、出された意見について職員と話し合いながらサービスの質の向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目④	毎月3回の家庭訪問をし、利用者の日常の様子や健康状態を報告し、家族の不安や意見、苦情等を聞いたり相談に応じている。また、家族は運営推進会議にも参加している。出された苦情や意見等は管理者が対応し、結果を家族に知らせている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会しており、行事には利用者と一緒に参加をしている。町内会の行事でグループホームや介護保険について説明している。また、近隣の高齢者宅を訪問し相談に応じている。近隣住民とは災害の時は互いに助け合うことを取り決めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族主義を基本とした人間関係及び環境の下での生活の場であるという理念のほかに、利用者の権利として「地域社会の一員として生活」することを提示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングなどで理念について話し合いながら、実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、行事にも参加している。地域の認知症についての介護相談や高齢者の相談にも応じている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。評価を通じての気づきや改善点は毎日のミーティングの中で確認し、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市役所職員、町内会長、民生委員、利用者家族、利用者が参加し、2ヶ月に一度開催している。会議では、事業者の報告説明に留まらず、参加者から出された助言、意見をサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と情報交換を行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者は、月3回は利用者の家族等を訪問し、利用者の日常生活の様子を報告し、金銭出納、請求書等も届けている。健康状態に変化があった場合や通院後など、随時電話で報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族が参加しており、家庭訪問時に意見も聞いている。改善が必要なことについては管理者、職員、家族が話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は職員の離職がなく、利用者と馴染みの関係ができています。離職があった場合は管理者と職員で、利用者へのダメージをできる限り防ぐための体制を構築している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は法人内の研修に力を入れている。また、職員が介護福祉士の試験を受ける費用も初回は事業所が持つなど、職員をフォローアップし、働きながらトレーニングをして資格をとることを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の同業者である介護支援専門委員会と交流を持ち、勉強会やネットワークを作り活動している。管理者は勉強会や活動を通して得た知識を毎日のミーティングで報告し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が本人や家族と面談し、事業所見学を行ったり、職員と話し合いながら対応し、馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの生活習慣を把握し、一緒に過ごしながら、本人から学んだり支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりのライフスタイルや暮らし方を理解し、個々に対応している。思いや意向を表出することが困難な場合は、日常生活から把握したり家族から情報を得ながら、検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人ができること、できないことなど詳細なアセスメントを行い、3ヶ月に1回のカンファレンスで介護計画の原案を作り、管理者が家庭訪問をし家族の意見を取り入れながら計画を作成し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、見直しをしている。利用者の状況変化を見逃さず毎朝のミーティングで話し合い、家族とも話し合い現状に即した新たな計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の介助や外出など、柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は全員、利用開始前からのかかりつけ医を受診している。通院には職員が対応し、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら支援をしている。受診内容に応じて家族に報告をし、家族と一緒に通院に同行し、適切な医療を受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	希望があれば早い段階から医療関係者と家族、職員と話し合い情報を共有し、可能な限り事業所で暮らせるように支援をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの表情等に注意をしながら、尊厳を損ねることがないように言葉かけや対応をしている。記録等の個人情報は決められた場所に適切に保管し、廃棄する際はシュレッダーにかけるなど配慮しており、持ちだしは禁止となっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活スペースを大切にしながら、体調を見ながら日向ぼっこや散歩、買い物に行く等、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等、能力に応じて利用者と職員が一緒に行っている。利用者家族や近隣の住民から食材の差し入れがあり、利用者の楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により入浴剤を使用したり、入浴を楽しめるように個々の会話を大切にしている。拒否をする利用者には、声かけを工夫する等、無理強いをせず対応をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	何事も無理強いせず、利用者が自ら行動できるようにしている。洗濯物をたたむ等の役割、風船バレーやカラオケ等の楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課の散歩や買い物、ドライブ、日向ぼっこ等、その日の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と職員は鍵をかけることの弊害を理解している。利用者が外出する時は一緒に出かけるなどの支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員全員が防災マニュアルを持ち研修をしており、年2回、昼、夜間を想定した訓練を行っている。また、災害時には近所の住民と協力をして避難することを取り決めている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を採り入れた献立を栄養士が作成している。利用者の体調に変化があった場合は、食事量や水分量を記録し、受診の際、医師に伝えている。また、刻み食等にも対応している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に行事の写真を掲示したり、季節感を採り入れた飾り付けを行っている。利用者は皆で居間で過ごす事が多く、談笑、楽しみごと、役割を行いながら過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台とテレビを設置している。使い慣れた家具や家族の写真、仏壇、鉢植えを持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		

※  は、重点項目。